場所　３年６組教室

第３学年６組　英語科学習指導案

授業者　石川　直斗

１　単元　「Unit4　How can we help each other in a disaster?」
～災害が起きた時に互いに助け合うためにできることは何だろうか～
探究課題「Mr. Ashiraf が日本で安心して暮らすにはどうすればよいか」

２　本時の指導

（１）段階　「活用」　１０／１２　時間

（２）目標

・間接疑問文や現在分詞・過去分詞を用いて書かれた防災グッズや非常食についての紹介文をより分かりやすく改善したり、仲間の意見を聞いて、相手の事情や考え方に配慮した英文はどのようなものか考え直したりすることができる。　（「活用」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　学習課題を設定する。 ・外国から来た人にとって、地震は頻繁に起きるものではなく、ほとんど起こらないものなんだ。	・探究課題と本時の学習課題をつなげるために、愛知県に住む外国人が災害時に困っていたことに関するインタビュー動画を視聴する。
	学習課題　Mr. Ashiraf が災害時に過ごしやすくするための紹介文をどのように改善したらよいか考えよう	
3	２　グループごとに紹介文の発表練習を行う。 ・火を使わずに調理できるというアルファ米のよさを強調(声のトーンや読む速度、間の取り方を工夫する等)して読んでみよう。	・グループ同士で発表を聞き合う際、互いの紹介文のよいところに気付き合うために、最も Mr. Ashiraf のことを考えて作成した文を強調して読むよう指示する。
8	３　グループ同士で発表を聞き合う。 ・Mr. Ashiraf は避難訓練のことを知っているけど、外国では当たり前のことではないんだ。 ・日本の夏は暑いから、涼しくなるグッズの紹介があると嬉しいんじゃないかな。	・紹介文改善に役立てるために、自分たちの発表文に生かすことができるかという視点で聞くよう指示する。 **◎紹介文の改善の際に、仲間の紹介文を活用できるように、相手のグループでよかった表現をメモするワークシートを使用する。**
20	４　自分たちのグループの発表文を改善する。 ・紹介文に地震による二次災害のことを付け加えてみよう。	・分かりやすい発表文にするために、導入で見せた動画や仲間の発表文を参考にするよう指示する。
30	５　どのように紹介文を改善したか全体で共有する。 ・A fire may happen after an earthquake because many buildings fallen down will break another buildings.	・紹介文をどのような表現を用いて改善したかを全体で共有するために、改善した英文を板書する。 ・共有した後に仲間の改善を参考に自分たちの紹介文を改善する時間を設定する。
45	６　振り返りを書く。 「各自の事情を配慮して紹介文を作ると、より伝わりやすくなると思いました。本番では、より魅力的な紹介文にし、発表できるようにしたい。」	・授業を通して次時へ向けた目標を考えるために、「仲間の発表を聞いて感じたこと」、「自分たちの紹介文に影響を与えた表現」、という振り返りの視点を与える。

３　評価

・防災グッズや非常食についての紹介文を改善したり、仲間の意見を聞いて、相手の事情や考え方に配慮した英文はどのようなものか考え直したりすることができたか。
（発言、ワークシートへの記述から判断する。）